

平成28年度 静岡産業技術専門学校 学校自己評価・学校関係者評価 評価報告書

1. 教育理念・教育目標

教育理念

社会に自立するために必要な人間力と高い専門技術を有する人材を育成し、地域社会に貢献する。

教育目標

学校教育法に基づき、工業分野における専門教育による人間性豊かで創造性に富んだ技術者の育成と、商業分野における実務教育による知性高く教養深い有能な職業人や社会人の育成を通して、地域社会の発展に寄与することを目的とする。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

教育活動・教育成果

- ・「職業実践専門課程」に関連する取り組みを確実に計画・実行し、組織として体系的に、より実のある取組としてレビューを行い、更なる教育成果につなげる。
- ・各学科における取得目標となる資格を再度レビューし、「重点資格」の取得率向上に向けたカリキュラムの再検討と、教育目標と社会のニーズに合った取得目標資格の絞り込み等を行い更なる教育成果の向上に結び付ける。
- ・就職実績に対し、単に就職内定率を追うのではなく、学んだことに関連する職種への就職率（専門職内定率）を向上させる「量から質」への指導方針・指導内容の転換・改善を引き続き図る。

学生の募集と受け入れ

- ・H29年度入学生募集実員数 215名を確保する。
- ・オープンキャンパスプロジェクトを編成し、他校との差別化や本校の優位性をアピールする運営を計画し、出願率の向上を図る。
- ・県内高等学校からの招聘授業や資格取得講座などを企画・実行し、本校の知名度向上を図る。

教職員組織

- ・有効な学校運営に向けた学内分掌体制を改善・再構築し、学生や地域・企業へ対応する時間を確保し、教育成果向上に結び付ける。
- ・全教員の教育スキル向上に向け、更に研修参加・技術交流を積極的に行う。

教育環境

- ・増大するインターネットアクセス量に対応する為に、学内ネットワークインフラの充実・更新を行い、教育に必要なネットワーク環境を計画的に導入・整備する。

学生支援

- ・就職内定率95%以上達成、および未内定者数を一桁台に抑えるべく、キャリア教育の充実、学生への早期の指導及び細やかなサポート体制の下、的確な対応を徹底する。
- ・学生満足度を向上させることで退学率の低減を図り、退学率を4%以内に抑える。
- ・学内イベントの実施状況を再度見直し、より魅力あるものとして企画運営する。

管理・運営

- ・セクシャルハラスメントのみならず、広くハラスメント全般に対応するようハラスメント委員を選出する。
- ・情報セキュリティ委員を選出し、情報セキュリティ対策に努め、個人情報保護を遵守する。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価方法： 4（適切）→ 3（ほぼ適切）→ 2（やや不適切）→ 1（不適切）

（1）教育理念・目標

評価欄

1-1	教育理念並びに教育目標が明確に示されているか	4
1-2	学校における職業教育の特色は何か	4
1-3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
1-4	理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
1-5	各学科の教育目標、育成人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられているか	4
学校自己評価 平均		3.8
<u>成果と課題</u>		
<ul style="list-style-type: none"> ・学生に教育理念・目標を周知徹底するために用いる学生便覧の構成、体裁を全面的に見直し、より学生が必要に応じて情報を引きやすいものに改良した。 ・学生便覧に記載されている内容は、入学時のオリエンテーション等を通し、入学生全員に周知している。また、進級後の新学期開始時に、改めて該当学年の教育目標や内容を学生に周知することを徹底した。 		
<u>今後の改善方策</u>		
<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度から、保護者授業見学会の参加対象を従来の新入生保護者限定から全学年保護者に拡大し、情報発信や、教育理念や教育目標等を周知する機会を増やす改善を行う。 		
<u>学校関係者 評価コメント</u>		
<ul style="list-style-type: none"> ・保護者授業見学会等を含め、保護者に教育理念がより詳しく伝わる環境を整備し、より多くの保護者に学校を訪れる機会を作って欲しい。 <p>（回答）平成29年度より、全学年の保護者を対象にした授業見学会を、後援会総会と同時に開催する試みを開始した。後援会総会での学校近況報告と合わせ、学校の教育理念・目標、授業実施の状況などを保護者がより理解を深めていただける機会として開催した。</p>		
学校関係者評価 平均		4.0

（2）教育活動

2-1	シラバスが作成され学生に配布されているか	3
2-2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
2-3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
2-4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	3
2-5	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
2-6	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
2-7	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
2-8	資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
2-9	人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
2-10	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
学校自己評価 平均		3.6

成果と課題

- ・デザイン系学科を中心に、実習のテーマとして外部の企業・団体様より作品制作のテーマを頂き、企画から制作、プレゼンテーション、納品までを実習し、またCADデザイン科においては卒業研究における研究テーマを企業様から頂き研究・発表を行うなど、より実践的な授業を展開した。
- ・医療事務科において、医療事務の現場で学んだことを実際に体験し、就職前に現場業務をより深く知るための「病院現場実習」を、地域の医療組織に依頼し実施した。
- ・文部科学省が主導する「職業実践専門課程」に、「コンピュータ科」「建築科」を申請し認定を受けた。その結果、全学科が認定学科となった。
- ・全学科が「職業実践専門課程」の認定学科として、該当する関連分野の企業・団体様との連携を深め、教育課程編成委員会を開催し外部委員からの意見やアイデア、最新の業界動向等を教育カリキュラムの改善に活かす取り組みを実施した。
- ・本年度もキャリア教育への取り組みとして、1年次入学時から、定期的にキャリアカウンセラーや、ビジネスマネージャー講師など外部講師を招き、年間を通してキャリア教育への取り組みを実施した。
- ・授業の点検評価は、学生アンケートを実施し状況を把握し対応している。
- ・全学科の全教員が「関連分野における先端的な知識・技能等を修得」「教員の指導力育成」など教員の資質向上を目的とした研修に参加した。

今後の改善方策

- ・全学科が「職業実践専門課程」認定学科となったことを受け、継続して申請要件を満たすための取り組みを確実に計画・実行し、組織として体系的に、より実のある取組としてレビューを行い、更なる教育成果につなげる。
- ・各学科における取得目標となる資格を再度レビューし、「重点資格」の取得率向上に向けたカリキュラムの再検討と、教育目標と社会のニーズに合った取得目標資格の絞り込み等を行い教育成果の向上に結び付ける。

学校関係者 評価コメント

- ・様々な企業や団体との連携授業、制作実習、業界講演会、インターンシップ、展示会、現場見学会など、学校の枠を超えたより実践的な取り組みは大いに評価できる。今後も継続、拡大を期待したい。
(回答) 今後も「職業実践専門課程」認定学科として、より実践的な教育を学生に提供するための取り組みとして、教育活動の柱として継続的に改善、充実を図って行く予定。
- ・実践的な教育として、技術だけではなく、自分たちの成果物に対するプレゼンテーションを行うことで、外部企業側の意見やアイデアを吸収できると思う。
(回答) これまでもプレゼンテーションは社会人として持つべき大切なスキルであるという認識であり授業の中に組み込んできたが、今後さらに改善、充実を図りたい。
- ・全教員が外部研修に参加していることは大いに評価できる。
(回答) 教えるべき知識や技術の陳腐化を防ぐ意味でも重要なことであるとの認識であり、平成29年度以降も全教員が研修を受ける体制、環境づくりを学校上げて推し進めていきたい。

学校関係者評価 平均 4.0

(3) 教育成果

3-1	就職率の向上が図られているか	4
3-2	資格取得率の向上が図られているか	3
3-3	退学率の低減が図られているか	3
3-4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
学校自己評価 平均		3.3

成果と課題

- ・就職内定率以上に、専門職内定率（履修した分野に関わる企業等への内定割合）を向上させることに重点を置いた学科の運営や就職指導を行い、学校全体として85.4%の専門職内定率を達成することができた。
- ・資格取得に関しては、例年の実績に近い資格取得実績をあげることができた。
- ・CAD利用技術者試験において3次元分野で6名の満点合格、2次元分野では3年ぶりに合格実績全国トップに返り咲くなど本校「CADデザイン科」の資格取得ノウハウの高さを証明することとなった。
- ・学生動向を短いスパンで継続的に追跡調査し、早期に面談や保護者連絡を行うための退学防止策を講じたが、退学率は5.38%と昨年度3.0%より増加する結果となった。

今後の改善方策

- ・退学率を下方安定化するため、保護者との連携を深める方策を検討する。また、経済的理由や精神的理由により退学する学生を減らすために、退学兆候の早期把握を行い、面談や家庭連絡、カウンセリング等を着実に実施する。

学校関係者 評価コメント

- ・就職内定率の高止まりは素晴らしいと思う。欲を言えば、就職するまでに、社会人になるための自立を促す取り組み、体制作りを今後検討してみたいと思います。
(回答) 技術、知識だけではなく、社会人としての「人間力」を高め、自立してゆくための意識付けを、キャリア教育だけではなく、普段の学校生活の中で育成できるかを今後検討していきたい。
- ・学校全体で専門職内定率が高いことは大いに評価できるが、学科間で専門職内定率の高低がある点が気になる。
(回答) 学科が目指す業種、職種によって地元就職先企業が少ないなどの事情もあり、一概にすべての学科で平均的な専門職内定率にすることは難しい側面はあるが、学生、保護者の入学当初の目的、期待に応えられるように、更にすべての学科の教育カリキュラムや就職指導体制を見直していく。
- ・情報系国家資格の取得に関して、ある程度実績を維持していることは評価できるが、学生の能力格差が広がる傾向に、受験学科全体でのブラッシュアップが必要である。
(回答) 受験学科においては、これまで積み上げてきた指導ノウハウだけではなく、常に学生の状況に合わせた指導方法の再構築を検討する。
- ・学科が取得を目指す重点資格の見直しは行うのか。
(回答) 外部企業や団体と学校が協力して教育カリキュラムを見直す「職業実践専門課程 教育課程編成委員会」での情報収集をはじめ、企業、社会のニーズに合致した資格取得を、ご意見を取り入れながら継続的に見直し、実施していく。
- ・退学率が若干上昇しているのはなぜか？
(回答) 昨年度実績は、例年実績と比較して非常に低い退学率であったことから、前年度対比でいうと本年度は上昇しているように見えるが、過去5年の期間で見た場合は、特別高い退学率であったとは考えていない。しかしながら、退学者を一人でも減らす教育努力は、学校として重要な施策であり、学生の退学兆候を早期に発見し、着実かつ的確な学生指導による退学防止努力を継続して行う。

学校関係者評価 平均

3.5

(4) 学生支援

4-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
4-2	学生相談に関する体制は整備されているか	4
4-3	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
4-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
4-5	保護者と適切に連携しているか	3
4-6	卒業生への支援体制はあるか	3

4-7	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4
4-8	新たな求人開拓の努力はしているか	4
4-9	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学校自己評価 平均		3.7

成果と課題

- ・就職率の向上を図るため、全教員が一律的に指導する就職ゼミ体制を本年度も運営した。就職活動に必要な基本的就職活動リテラシーの指導・サポート体制と、専門職内定率を向上させるための学科・クラス担当からの学生への情報提供・サポート体制をより明確化し、きめ細かな就職指導を行った結果、内定率、専門職内定率ともに高いレベルでの維持・向上に成功した。
- ・常設の進路指導室を設置し、学生の就職相談には常時対応している。専任職員を配置し、進路活動支援・求人開拓を行っている。校内企業ガイダンスも外部会場で2回、本校でも3回実施し、就職内定率向上に努めている。
- ・学生相談には随時対応しており、心理カウンセリングを専門の心理カウンセラーの元、毎週1回、1日2名のカウンセリングを実施している。
- ・学生・保護者の経済的負担を軽減する措置として、学校同窓会組織の協力のもと、在学中の使用に限ったノートパソコン貸与制度を実施している。
- ・総務部門に学生支援機構の奨学金制度や官民の教育ローン制度、学校法人静岡理科大学グループで企画した学費サポートプラン等の学生・保護者に対するサポート職員を配置し、随時相談受付を行っている。
- ・学校行事・イベントは、全校規模で春期にボウリング大会、バス旅行（東京ディズニーランド等）、秋期にスポーツフェスティバルを実施。また各科ごとに教育上必要な施設見学や展示会見学、ハイキング等を実施し、保護者による学校後援会組織からの支援を受けながら年間を通し実施している。

今後の改善方策

- ・前項でも前述した退学予防のための保護者との連携に合わせ、学生・保護者からの学校に対する様々な意見・要望を収集する仕組みを更に検討・実施する。

学校関係者 評価コメント

- ・学生一人に対し、複数人の教員が就職サポートをする体制は素晴らしいと思う。
- ・保護者との連携を密にする対策が重要性を増すのではないかと。Web やスマートフォンアプリなどを導入し、学校外における保護者への情報発信、情報収集に活用してみても。

(回答) 保護者との連携の重要性は学校として十分認識している。今後の検討課題として検討を行う。

学校関係者評価 平均 **3.9**

(5) 教育環境

5-1	講義室、実習室の管理は適切に行われているか	4
5-2	実習室及び講義室は学生の自習室として開放しているか。	4
5-3	教育用機器備品は整備されており活用されているか	4
5-4	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されている	3
5-5	防災に対する体制は整備されているか	4
学校自己評価 平均		3.8

成果と課題

- ・学生を収容する講義室及び実習室は、室数、面積、実習に必要なパソコン台数や実習機器が確保され、インストールソフトウェアも定期的にバージョンアップが行われている。

- ・講義室及び実習室は学生の自習室として休み時間や放課後、長期休暇期間に開放している。図書については各科で必要図書を購入して教室や実習室に配備し、学生が適宜閲覧できるよう整備している。
- ・学生が使用するプリンターやデジタルカメラ、授業時に使用するノートパソコンやプロジェクター等の教育用機器備品は、毎年使用状況を確認した上で修繕や追加購入をしており、十分に整備・活用されている。

今後の改善方策

- ・増大するインターネットアクセス量に対応する為、平成29年度内に学内ネットワークインフラの充実・更新を行い、教育に必要なネットワーク環境を計画的に導入・整備する。
- ・最新のゲームプログラミングやコンピュータグラフィックス制作環境に対応する実習用パソコンをゲーム実習室に導入・整備する予定。

学校関係者 評価コメント

- ・今後も教育成果を維持するために、教育内容は勿論のこと、設備、環境についてますます充実した対応を今後もお願いしたい。
(回答) 学校が、より実践的な教育成果を出していくために外部企業や団体様のご意見を取り入れながら、継続的に見直し、検討を実施していく。

学校関係者評価 平均 4.0

(6) 学生の募集と受け入れ

6-1	入学案内には志願者が必要とする情報が掲載されているか	4
6-2	募集要項の内容は適切か	4
6-3	学生募集活動は、適正に行われているか	4
6-4	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
6-5	学納金は妥当なものとなっているか	4

学校自己評価 平均 4.0

成果と課題

- ・学生募集について教員・職員一丸となって取り組んでおり、広報資料・募集要項の内容等は適切である。
- ・学校説明会は5月から8月にかけて基本的各月1回以上実施され、オープンキャンパス（体験入学）については3月から9月にかけて9回実施、入試説明会とミニ体験は10月以降5回実施し、入学選考は10月以降月1回実施、3月は志願者ごとに随時実施しており、それぞれ実施プロジェクトで十分に検討を行ったうえ適切に実施された。
- ・入学者は定員215名に対し214名であった。
- ・平成29年度入学生から適用される学納金の見直しを行った。

今後の改善方策

- ・学校全体の定員充足は勿論、全学科の定員充足を目指し、平成29年度の募集活動に対策を講じる。

学校関係者 評価コメント

- ・静岡市の人口流出、少子化の流れの中で、定員充足が安定的になされていることなど、学校としてのご努力は素晴らしいと思う。
- ・学生募集の媒体としてのWeb広告への出稿など、今後も引き続き様々な新たな施策が必要。
- ・進路決定における保護者の意見の重要度が増しているとの情報がある。募集における保護者目線を、更に大事してほしい。

学校関係者評価 平均 4.0

(7) 教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守

7-1	教職員の能力、業務内容の評価を定期的に実施しているか	4
7-2	組織間、各部署間の連携は適切に図られているか	4
7-3	非常時の危機対策管理に対する周知は徹底されているか	4
7-4	消防計画、学校安全計画は適切に整備し、防災訓練等は実施されているか	4
7-5	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
7-6	事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
7-7	運営組織や意志決定機能は、規則等で明確化されているか、有効に機能しているか	4
7-8	人事、給与に関する制度は整備されているか	4
7-9	教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	4
7-10	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
7-11	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4
7-12	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
7-13	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
7-14	財務について会計監査が適正に行われているか	4
7-15	財務情報公開の体制整備はできているか	4
7-16	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
7-17	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
7-18	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
7-19	自己評価結果を公開しているか	4
7-20	ハラスメントに対する防止対応策が整備されているか	4
学校自己評価 平均		4.0

成果と課題

- ・学校法人全体を統括する理事会・評議員会は年3回、5月、9月と2月に定期的実施され、議事録は適切に作成管理されている。
- ・就業規則などの諸規程は整備されており、一部抜粋が規程集として全職員に配布され、また全ての規程集については電子化されており、教職員がパソコンの画面で自由に閲覧できるよう整備されている。
- ・組織間の連携は、校長会及び3つの部会（教育、進路、募集）と中期計画策定委員会を中心に十分な連絡会議が持たれている。
- ・例年実施されている防災訓練の実施方法をより非常時に近い環境で実施できるように、常勤職員だけでなく、非常勤講師も含めたより実践的な避難シミュレーションを行い、防災計画の見直しを行った。
- ・個人情報は使用目的等を明示したうえで収集、利用、廃棄している。AEDについてはAED管理責任者を配置し、1階に事務室に配置され、使用方法について全職員がレクチャーを受けている。
- ・セクシャルハラスメントのみではなく広くハラスメント全般に対応するようハラスメント委員会を設け、委員名や連絡方法、またハラスメントへの対応等を明記した文書を校舎内廊下に掲示している。
- ・情報セキュリティ委員を選任し、情報の持ち出しに対しては管理記録簿により管理している。
- ・学園の財務情報はホームページ上に公開され常時閲覧可能である。財務分析比率は適切な数値となっている。

学校関係者 評価コメント

- ・現状では適切に組織・運営されており、健全な学校経営で安定している。

学校関係者評価 平均 **4.0**

(8) 社会貢献・地域貢献、国際交流

8-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
8-2	留学生の受入れ・派遣等において適切な手続き等がとられているか	4
8-3	留学生の受入れに対して、学内での適切な体制が整備されているか	3
学校自己評価 平均		3.7
<u>成果と課題</u> ・学校施設を活用した、高校教員の研修、高校生の職業体験授業や技術体験授業などを随時受託している。 ・留学生の受入体制について留学生相談室を常設し、クラス担当と相談室が連携の下留学生のケアに努めている。		
<u>今後の改善方策</u> ・留学生の受入に関する歴史が浅いことや、入学生の国籍も多様化してきている為、法人内の日本語学校や各校と留学生ケアのノウハウを共有し、充実させていく。		
<u>学校関係者 評価コメント</u> ・社会貢献や地域貢献は、学校の存在意義を対外的に知ってもらう上で重要であり、取り組みとして評価できる。 今後更に学校をオープンにし、それら取り組みを推進してほしい。		
学校関係者評価 平均		4.0

以上